

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	花平の郷 さくら		
所在地	静岡県浜松市北区引佐町花平725-1		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=22">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=22</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しくのんびりと、生きがいのある生活」を送って頂ける様に努めている。入居者様個々の生活リズムを大切に、それまでの生活リズムに近づけるよう入浴は夕方からとしている。お一人おひとりの『喜ばれるものは何か』を追求している。誕生日会ではご自宅へお連れしたり、好きなものを食べて頂くよう外出するなど、企画内容もその方の求めに応じて対応している。毎月の食事会では季節が感じられる手作りの料理を提供するほか、好きなものを選んでの出前や外食も毎月定期的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は「望まれる介護をしたい」という想いの下「明るく楽しくのんびりと」の理念の浸透に努めている。職員は入居者を自分の祖父、祖母のように思っていて「何をしたいのか」を把握し動くようにしている。担当制になっているが職員間でフォローし合え、管理者とも言い易い関係になっている。法人グループの委員会に担当職員が参加し、「高齢者の尊厳を守る会」で作成した職員の声掛けは誰が主体であるか？職員のアンケートをまとめた気になる声掛け「座ってて・立たないで」「待ってて・動かないで」等7項目を職員トイレに掲示し啓発している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様から愛される施設」を理念として開設から掲げ、全職員へ基本理念を配布し、各所にも掲示している。常に意識し自己の振り返りが出来る様にしている。	「明るく楽しくのんびりと生きがいのある生活」の基本理念は見える場所に掲示しており、職員には入職時に渡している。普段の生活の中で職員同士確認し合い、会議で話し合っ共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域が主催するお祭りや盆踊りなどへ参加させて頂き、こちらが企画した催しに地域の皆様に招待するなど、交流を図っている。普段の散歩途中での立ち話など日常的に関わりが出来る。	地域の方に、入居者と一緒におやつを差し入れることがあり、お花を持ってきてくれる方がいる。地域の行事に行ける人が参加し、法人の秋祭りに招待するなどの交流がある。老人クラブの方は推進会議に出席し、年2回草取りに来てくれている。	管理者は気軽に来られる事業所を目指している。地域に愛される施設として、持てる力を活かした地域との関係作りに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の敬老会の中で、「認知症予防について」や「介護保険施設の利用の仕方」などを説明した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催を開始以来継続しており、情報交換及びサービスの向上に活かしている。	偶数月の第2火曜日を予定し、定期的開催している。現状報告、行事報告後にフリートークで会議が進められている。地域の情報が得られ、参加者からの意見をサービスに活かしている。家族に出席を呼びかけ、議事録は郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問や運営推進会議・事業所連絡会を通じ、区の担当者や包括支援センター職員と連携を図っている。	区の担当者に防災の相談などしている。地域包括センターの主催する勉強会で相談や質問をしている。外出して戻れなくなる等の対応を役場や警察署、消防署に相談をして、マニュアルの見直しをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会に出席し、全職員に対し報告及び情報共有に努めている。緊急時やむを得ない場合などは家族と相談し同意を得て対応している。	玄関をはじめ扉に施錠はなく、センサーで対応している。管理者は「施設に入っているだけでやりたいことを我慢させている」という思いを組み取るようにしている。個々の行動パターンを把握し事例をあげて検討して、拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での委員会に出席し、虐待についても全職員に対し指導している。スピーチロックなど無意識にされていないか、職員同士で注意し合っている。		

静岡県(花平の郷 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者を決め必要な研修へ参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で契約についての説明はしっかりと行っており、不安や疑問の解消に努めている。改定などがあれば、その都度書面にてお知らせし、面会時に詳しく説明した上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも声を掛けて頂ける雰囲気作りに努めている。また、意見箱や年1回実施している家族交流会でのアンケートを通じて意見を確認させてもらっている。	管理者と職員は家族と話し易い関係が出来ていて、直接意見や要望を聞いている。内容は連絡ノートに記入して共有している。担当職員が利用者から「自宅で妻と一緒に食事がしたい」思いを聞き、話し合いを重ね、職員と一緒に自宅へ帰り要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議以外でも気になっていることや提案などは出来る限り耳を傾け、施設長より法人の運営会議へ意見を提出している。また、日々の行事など担当者の思いを優先に行事の企画を立てて実施している。	会議で入居者にとって良いと思うこと、職員が困ったことなど意見を出し合っている。行事、園芸、環境整備、お便り作成などの担当が決まっていて、各担当の要望は会議で話し合い連絡ノートや申し送り共有し、実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員満足度が高められる様に職員用意見箱を設置し、本音を探っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での「研修教育委員会」を中心に、毎月行う全体研修会や資格取得に向けての勉強会を企画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加盟し、研修会等へ参加することで情報交換や施設見学の受け入れも相談し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の悩み悲しみなどが理解できるよう傾聴に努めている。ご家族からも意見を確認した上で、ご本人の不安が少しでも軽減されるような取組を行い、信頼して頂ける関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・相談事などはしっかりと耳を傾け、不安の軽減に繋がるよう言葉掛けを行い、信頼して頂ける関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとってもっとも適切なサービスが提供できる場所はどこか、を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して無理強いはいませんが、お願いできることはして頂いている。一緒に洗濯物をたたんだり、味噌汁の味見や、食事前の体操の号令などをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会にて、介助方法や移乗方法などの勉強会を家族に対して行っている。外出など一緒に参加されるようお誘いをし、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	明るい笑顔と言葉掛けを心がけ、面会者が来られやすい雰囲気にも努めている。馴染みのある場所への思いが途切れない様に出身地域へのドライブや年賀状・暑中見舞いなどを通じ、外部とのつながりを継続する支援をしている。	住んでいた地域の方、職場の同僚などが訪ねて来ている。元教師の教え子たちが同窓会の後に大勢で来て、庭のベンチでお茶を飲みおしゃべりしたり、写真を撮ったりしたことがある。手紙が届くと、まずお礼の電話をする手助けをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、そうでない人がいる為、食事の席には気を使っている。その中で洗濯物をたたむ仕事を通じ、あるいは歌などの時間を通じて入居者同士が関わり合い、支え合えるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合でも、随時面会に伺い、状態の把握とともに、施設としてお力になれる事は何かを考え相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人から意向・要望を確認しているが、困難な場合は、家族からのバックグラウンドアセスメント票を活用し、どのような暮らしが最良なのかを検討し、把握に努めている。食事会や外食のメニューの希望をとり提供している。	「〇〇が食べたい」「〇〇が欲しい」「〇〇に行きたい」など、本人の言葉を聞き逃さず希望に沿うように努めている。困難な人には、家族の情報やアセスメント票の中からいくつかを示し、選んでもらう形で把握し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前可能であれば、ご自宅での実際の様子を確保させて頂くとともに、バックグラウンドアセスメント票への記入を家族にお願いし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間にて毎日申し送りをし、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が、他の職員からの意見や病状等の変化を記入した連絡ノート等を基に計画作成者とカンファレンスにて検討して、現状に即した介護計画を作成している。3~6か月にて見直しを図り、家族の意見や要望を確認した上で、同意を得ている。	家族から面会時に意見を聞き取り、電話でも確認している。定期受診の医師の意見や状態により専門医の意見も入れて作成し、家族に説明し確認している。変更があれば会議で担当職員が発表して連絡ノートに記入し、カルテに挿み毎日確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙へ毎日時間を追って記録している。その他、介護日誌及び連絡ノートを用い情報の共有を図りながらケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの地元へのドライブや、誕生日には家族と過ごす時間を作る事も計画している。希望に応じ、美容院への送迎や受信時の付き添いも行っている。		

静岡県(花平の郷 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる歌・踊りなどは随時受け入れている。防災訓練では消防署より訓練用消火器をお借りし、入居者と共に消火訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関より、かかりつけ医を選択して頂き、職員から医師へ必要な情報を報告しながら定期的及び随時受診の付き添いを行っている。必要に応じ、往診の依頼も行っている。受診後の家族への連絡も適時行っている。	地元の方は、入居前からのかかりつけ医が協力医の場合が多い。受診には職員が同行し、結果は家族に伝えている。緊急時や状態によって家族に連絡して受診を依頼し、職員も同行して説明をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違う事があれば、すぐに連絡相談している。その他、契約看護師への相談や隣接している介護老人保健施設の看護師へも必要に応じて協力を求めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻回にご面会をし、状態の把握に努めると共に、退院後も安心して戻ってこられる様、コミュニケーションを図っている。また、病院スタッフとも情報交換や相談に努めながら、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応について本人と家族の意向を確認し、職が細くなってきた時点で家族と話し合い、看取りの希望をされた家族と同意書を出しターミナルケアプランを作成している。法人全体での研修も行い、家族の心のケアに対しても学んでいる。	入居時に指針を説明し、家族が確認している「この服を着せて欲しい」などの本人の意向や、家族の意向を聞いている。好きな音楽を流し、家族と一緒に写真を飾って今までの経過を大切にしたいと意識は高く、家族の心のケアの支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全職員に対し、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を実施している。近隣住民の方々にも参加して頂き、施設内を把握してもらいながら車椅子を使った避難誘導も年1回行っている。目立つところにマニュアルが用意されており、いつでも手に取ることが出来る様にしている。	10月に運営推進会議と回覧板で呼びかけ、地域住民が参加して車椅子の操作体験と連絡訓練を実施している。11月の法人全体の訓練時に消防署が来ている。地域の防災訓練に管理者が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴や生活歴を考慮し、その方の人格を尊重した上で、言葉掛けを行い、落ち着いた穏やかな対応を心がけている。	入居時に希望の呼び名を確認して「お母さん」と呼びかける方がいる。1対1、全体でいる時、状況により言葉かけを使い分けている。入居者主体の声かけを職員同士で注意しあい、気になる場合は後で時間を取り話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当日の午後のゆとりの時間に、買い物や散歩など希望者を確認し、一緒に出掛けている。また、留守番を希望される方は、ゆっくり過ごしてもらえるよう音楽を流したり、その人のペースが損なわれない様思いや希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の状況や、要望などを尊重し、当日の予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物ができる方は、衣類などの購入を自分で選んでもらうようにしている。意思表示されない方には、家族から好みを伺ったり自宅にある好みの服を持ってきてもらうように依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食とも職員も一緒に食事を頂いている。その場でご飯やみそ汁などを作り、見て楽しんでもらいながら、味見をしてもらうなど協力もお願いしている。昼の食材を一緒に取りに行ったり、食器の後片付けも一緒にお願している。毎月、手作りの食事会や出前、外食にて、食べる楽しみを感じてもらっている。	惣菜は同じ敷地内にある法人の施設から届き、ご飯と汁物は職員が作っていて、庭の作物が汁物の具になっている。毎月の食事会では季節に沿って鍋物や栗ご飯など楽しんでいて、テーブルは食事形態や介助の度合いで分けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も事前に確認しており、苦手な物を避けたり、食べ難いものを刻んだり、トロミを付けたりと、その方に合わせた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きを行っている。困難な方に対しても、歯科医や歯科衛生士から助言をもらいながら口腔ケアに努めている。		

静岡県(花平の郷 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間のチェック表を用い、一人一人の排泄リズムを全職員が共有している。昼間はさり気ない声掛けや見守りによりトイレでの排泄を支援している。夜間はセンサー反応にてトイレ誘導や、ポータブルトイレへの支援をしたり、あえてパット交換のみにする等、その方の習慣や状態に合わせて対応している。	職員が個々のパターンを把握していて、昼間は殆どの方が、誘導によりトイレで排泄している。失禁パンツを使用していた人が、入居後職員の適切な声掛けや誘導で布パンツで過ごされるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり取ってもらうよう、飲みにくい方へはトロミを付け、お茶に限らずジュースやコーヒーなどお好きな物を提供している。随時便秘予防体操を行い、個々に合わせた下剤量も、かかりつけ医と相談しながら与薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は15:30以降から始め、2日に一度は入って頂くよう勤めている。希望者や皮膚の状態により毎日の入浴も可能としている。一般浴の他にミスト浴も完備しており、状態に応じ、介護者2名で介助している。希望者には同性職員での対応を行っている。	毎日湯を沸かし、拒む人には職員を代えたり、入浴剤で変化をつけて「温泉」のようにして誘うなど工夫している。無理強いはずせず翌日には入浴してもらうように支援している。夕方の時間帯に入浴することが不穏解消となり落ち着いて過ごされる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝間着や寝具など、それまでの習慣に合わせ、落ち着いて休まれるよう、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配薬の都度確認をしている。副作用、用法については表をカルテにはさみ、いつでも確認できるようにしている。副作用が心配な薬に関しては服用開始前に連絡ノートに記載し、全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事・草取りなど、それまでご自宅で頑張っておられた方や、入居中も頑張ってもらえる方には積極的に行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭には花壇・畑・池があり、日中自由に過ごす事が出来る。月1回位、天気の良い日を選び名所旧跡や花見、紅葉見物等の行事を企画して外でおやつを食べたり、誕生日には一人ひとりの希望に沿って職員とドライブや外出に出掛けている。家族への参加も呼び掛けている。	毎日夜勤者からの申し送りで状態を知り、天候を見て日勤者が日課の目標を伝えている。庭でお茶を飲む、買い物に交代で行くなど気軽に出かけられるようにしている。誕生日に担当職員とお寿司を食べに行ったことがある。	

静岡県(花平の郷 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、所持して貰うよう支援し、管理が困難な方であっても可能な限り、ご自分でお支払されるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある限りお手伝いをし、電話でも直接お話しをして頂いている。ご自分で書けない方には代筆をし、毎年家族へ本人からの年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットそれぞれにキッチン・リビングがあり、洋風和風の差別を付けている。南面の窓から程よい光と風が入り、ゆったりとした空間となっている。	高い天井に明かり取りの窓もあり解放感がある。広い窓から移り変わる季節の景色が見られ、居間から直接自由に庭に出て、洗濯を干したり、ベンチでお茶を飲むことができる。居間に面したトイレに脱臭機が置かれ臭いに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには畳の間やソファがあり、思い思いに過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅での本人の部屋に少しでも近づけられる様、家族に見取り図を依頼し、家具の配置も相談している。家具についても馴染みあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。仏壇を供えられている方もおり、その方らしい居室になるように支援している。	クローゼット、角度のある鏡が付いた洗面台、エアコン、換気扇が備え付けられ、ベッド、タンス、ソファなどは持ち込みである。各居室の壁に簾を掛けて担当職員が飾り付けを工夫している。本人が作った能面を飾っている居室、見取り図を参考に入居前の配置にした部屋がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下周囲に手すりを取り付け、バリアフリーに徹している。トイレは車椅子の方でも入れるよう、広さを確保している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	花平の郷 コスモス		
所在地	静岡県浜松市北区引佐町花平725-1		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=22">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=22</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しくのんびりと、生きがいのある生活」を送って頂ける様に努めている。入居者様個々の生活リズムを大切に、それまでの生活リズムに近づけるよう入浴は夕方からとしている。お一人おひとりの『喜ばれるものは何か』を追求している。誕生日会ではご自宅へお連れしたり、好きなものを食べて頂くよう外出するなど、企画内容もその方の求めに応じて対応している。毎月の食事会では季節が感じられる手作りの料理を提供するほか、好きなものを選んでの出前や外食も毎月定期的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様から愛される施設」を理念として開設から掲げ、全職員へ基本理念を配布し、各所にも掲示している。常に意識し自己の振り返りが出来る様にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域が主催するお祭りや盆踊りなどへ参加させて頂き、こちらが企画した催しに地域の皆様に招待するなど、交流を図っている。普段の散歩途中での立ち話など日常的に関わりが来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の敬老会の中で、「認知症予防について」や「介護保険施設の利用の仕方」などを説明した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催を開始以来継続しており、情報交換及びサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問や運営推進会議・事業所連絡会を通じ、区の担当者や包括支援センター職員と連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会に出席し、全職員に対し報告及び情報共有に努めている。緊急時やむを得ない場合などは家族と相談し同意を得て対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での委員会に出席し、虐待についても全職員に対し指導している。スピーチロックなど無意識にされていないか、職員同士で注意し合っている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者を決め必要な研修へ参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で契約についての説明はしっかりと行っており、不安や疑問の解消に努めている。改定などがあれば、その都度書面にてお知らせし、面会時に詳しく説明した上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも声を掛けて頂ける雰囲気作りに努めている。また、意見箱や年1回実施している家族交流会でのアンケートを通じて意見を確認させてもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議以外でも気になっていることや提案などは出来る限り耳を傾け、施設長より法人の運営会議へ意見を提出している。また、日々の行事など担当者の思いを優先に行事の企画を立てて実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員満足度が高められる様に職員用意見箱を設置し、本音を探っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での「研修教育委員会」を中心に、毎月行う全体研修会や資格取得に向けての勉強会を企画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加盟し、研修会等へ参加することで情報交換や施設見学の受け入れも相談し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の悩み悲しみなどが理解できるよう傾聴に努めている。ご家族からも意見を確認した上で、ご本人の不安が少しでも軽減されるような取組を行い、信頼して頂ける関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・相談事などはしっかりと耳を傾け、不安の軽減に繋がるよう言葉掛けを行い、信頼して頂ける関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとってもっとも適切なサービスが提供できる場所はどこか、を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して無理強いはいしませんが、お願いできることはして頂いている。一緒に洗濯物をたたんだり、味噌汁の味見や、食事前の体操の号令などをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会にて、介助方法や移乗方法などの勉強会を家族に対して行っている。外出など一緒に参加されるようお誘いをし、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	明るい笑顔と言葉掛けを心がけ、面会者が来られやすい雰囲気にも努めている。馴染みのある場所への思いが途切れない様に出身地域へのドライブや年賀状・暑中見舞いなどを通じ、外部とのつながりを継続する支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、そうでない人がいる為、食事の席には気を使っている。その中で洗濯物をたたむ仕事を通じ、あるいは歌などの時間を通じて入居者同士が関わり合い、支え合えるような関係作りに努めている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合でも、随時面会に伺い、状態の把握とともに、施設としてお力になれる事は何かを考え相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人から意向・要望を確認しているが、困難な場合は、家族からのバックグラウンドアセスメント票を活用し、どのような暮らしが最良なのかを検討し、把握に努めている。食事会や外食のメニューの希望をとり提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前可能であれば、ご自宅での実際の様子を確認させて頂くとともに、バックグラウンドアセスメント票への記入を家族にお願いし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間にて毎日申し送りをし、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が、他の職員からの意見や病状等の変化を記入した連絡ノート等を基に計画作成者とカンファレンスにて検討して、現状に即した介護計画を作成している。3~6か月にて見直しを図り、家族の意見や要望を確認した上で、同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙へ毎日時間を追って記録している。その他、介護日誌及び連絡ノートを用い情報の共有を図りながらケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの地元へのドライブや、誕生日には家族と過ごす時間を作る事も計画している。希望に応じ、美容院への送迎や受信時の付き添いも行っている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる歌・踊りなどは随時受け入れている。防災訓練では消防署より訓練用消火器をお借りし、入居者と共に消火訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関より、かかりつけ医を選択して頂き、職員から医師へ必要な情報を報告しながら定期的及び随時受診の付き添いを行っている。必要に応じ、往診の依頼も行っている。受診後の家族への連絡も適時行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違う事があれば、すぐに連絡相談している。その他、契約看護師への相談や隣接している介護老人保健施設の看護師へも必要に応じて協力を求めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻回にご面会をし、状態の把握に努めると共に、退院後も安心して戻ってこられる様、コミュニケーションを図っている。また、病院スタッフとも情報交換や相談に努めながら、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応について本人と家族の意向を確認し、職が細くなってきた時点で家族と話し合い、看取りの希望をされた家族と同意書を交しターミナルケアプランを作成している。法人全体での研修も行い、家族の心のケアに対しても学んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全職員に対し、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を実施している。近隣住民の方々にも参加して頂き、施設内を把握してもらいながら車椅子を使った避難誘導も年1回行っている。目立つところにマニュアルが用意されており、いつでも手に取ることが出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴や生活歴を考慮し、その方の人格を尊重した上で、言葉掛けを行い、落ち着いた穏やかな対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当日の午後のゆとりの時間に、買い物や散歩など希望者を確認し、一緒に出掛けている。また、留守番を希望される方は、ゆっくり過ごしてもらえるよう音楽を流したり、その人のペースが損なわれない様思いや希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の状況や、要望などを尊重し、当日の予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物が出来る方は、衣類などの購入を自分で選んでもらうようにしている。意思表示されない方には、家族から好みを伺ったり自宅にある好みの服を持ってきてもらうように依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食とも職員も一緒に食事を頂いている。その場でご飯やみそ汁などを作り、見て楽しんでもらいながら、味見をしてもらうなど協力もお願いしている。昼の食材を一緒に取りに行ったり、食器の後片付けも一緒をお願いしている。毎月、手作りの食事会や出前、外食にて、食べる楽しみを感じてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も事前に確認しており、苦手な物を避けたり、食べ難いものを刻んだり、トロミを付けたりと、その方に合わせた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きを行っている。困難な方に対しても、歯科医や歯科衛生士から助言をもらいながら口腔ケアに努めている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間のチェック表を用い、一人一人の排泄リズムを全職員が共有している。昼間はさりげない声掛けや見守りによりトイレでの排泄を支援している。夜間はセンサー反応にてトイレ誘導や、ポータブルトイレへの支援をしたり、あえてパット交換のみにする等、その方の習慣や状態に合わせて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり取ってもらうよう、飲みにくい方へはトロミを付け、お茶に限らずジュースやコーヒーなど好きな物を提供している。随時便秘予防体操を行い、個々に合わせた下剂量も、かかりつけ医と相談しながら与薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は15:30以降から始め、2日に一度は入って頂くよう勧めている。希望者や皮膚の状態により毎日の入浴も可能としている。一般浴の他にミスト浴も完備しており、状態に応じ、介護者2名で介助している。希望者には同性職員での対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝間着や寝具など、それまでの習慣に合わせて、落ち着いて休まれるよう、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配薬の都度確認をしている。副作用、用法については表をカルテにはさみ、いつでも確認できるようにしている。副作用が心配な薬に関しては服用開始前に連絡ノートへ記載し、全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事・草取りなど、それまでご自宅で頑張っていた方や、入居中も頑張ってもらえる方には積極的に取り組まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭には花壇・畑・池があり、日中自由に過ごす事が出来る。月1回位、天気の良い日を選び名所旧跡や花見、紅葉見物等の行事を企画して外でおやつを食べたり、誕生日には一人ひとりの希望に沿って職員とドライブや外食に出掛けている。家族への参加も呼び掛けている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、所持して貰うよう支援し、管理が困難な方であっても可能な限り、ご自分でお支払されるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある限りお手伝いをし、電話でも直接お話しをして頂いている。ご自分で書けない方には代筆をし、毎年家族へ本人からの年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットそれぞれにキッチン・リビングがあり、洋風和風の差別を付けている。南面の窓から程よい光と風が入り、ゆったりとした空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには畳の間やソファーがあり、思い思いに過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅での本人の部屋に少しでも近づけられる様、家族に見取り図を依頼し、家具の配置も相談している。家具についても馴染みあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。仏壇を供奉られている方もおり、その方らしい居室になるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下周囲に手すりを取り付け、バリアフリーに徹している。トイレは車椅子の方でも入れるよう、広さを確保している。		